一月二十八日夕刊

常磐毎日新聞

日刊

定價一部金貳錢一ケ月金五拾錢郵税五厘
廣告料五號十二字詰一行金五拾錢
日曜祭日の翌日休刊
發行兼編輯人 印刷人 川崎文治
福島縣石城郡平町長橋町三五
發行所 常磐毎日新聞社
電話六三〇番
印刷所 常磐毎日印刷株式會社

牢獄と蜘蛛と

こうろぎ　八

白土五郎

こほろぎ公

ところが高松の刑務所は木造りだから隙だらけだ。こほろぎ公も牢獄の狭いところは嫌らしい、一時間もたゝぬうちに逃げてゐつてしまふ。幾度捕へて來ても逃げて行くわざ〳〵捕まいて來て、室の中に押し込んで鳴かさずとも、自由に聞くことが出來るのだが人間の弱みで所有物にしたい。すべては自由を要求してゐるのだ塀の刑務所では房に這入つたら最後、出ることが出來ないから腹はへるし、生きるためには食はねばならぬ、それで麥粒にありつき生活の安定を得て鳴いてくれたのだ　あの蟋公でも自由を要求してゐたに違ひない。不味なものを食ふても自由に開放されることを望むであらう、蟋公を室に飼ふことは、蟋公の自由を束縛して彼の美聲を得て自分の慰さめものにすることだ。丁度、金持ちが妾を圍ふこととその心理は變りない、俺はある時某警察署に一週間ばかり留置されたことがある、その時同じ監房に、ルンペンが二人ゐた、彼等は辨天濱にゴロ〳〵してゐる奴じ片目にチンバで働くことは出來ず塵箱を漁つて歩き、滿足に飯にありついたことはなく、寢るに焚火してゴロ寢する連中だ俺は彼等に『此處に居ると麥飯ではあるが、三度々々飯は食はれるし、夜は毛布を借してくれるでないか、こんな良いところはないでないか別莊より良い、ここに一生居ると夜食住の心配はいらないよ』と笑談に言ふと、彼等は『こんなところには一時間も居たくない着るものがなくとも、食物がなくとも、寢るところがなくとも、辨天濱はよい、早く出たい』としきりに出たがつてゐた。ルンペンにしても自由を要求してゐるのだ。況んや自由に生れて自由に育つた蟋においておや。ある雨上りの日であつた。運動場に出ると、何者の悪戯ぞ、吾が愛する蟋公は竹の先に胴中をブツリ刺きささつて倒しまして、その竹を立てゝある、こほろぎ公は手、足をじたばたさしてもがいてゐる、俺は自分の体でも刺されたやうにヒヤツとした、すぐ竹を拔いてやると、あの彈力性のある腰と足でピンと躍ねる元氣で草の中に這入つて行つた。

こほろぎ公の聲がそろ〳〵少なくなる時は、菊の花も哀れに打ちしほれて、朝顔の殘骸はみにくゝさらされ、花畑は荒廢して、梧桐は一枚〳〵寒風にさら〳〵と牢獄の庭に運ばれる

◎明日の献立◎

【朝】粕汁――鮭　葱　小付　こんぶ　辛煮

【晝】付けやき　油揚　小付　大根　おろし

【晩】野菜　煮込　メリケン粉　ひき馬鈴薯　人參　玉葱　青豆　小丼蛤　つくだ煮

御見舞御禮

昨廿七日午后七時半拙宅より失火の際は早速御馳付の上消火に御盡力被下御蔭樣を以て大事に致らず消し止め候段有難奉謝候一々拜趨御禮旁々御詫び申上べくの處取込中に付略儀乍ら紙上を以て御挨拶申上候

平驛前　野崎喜八郎

一册の代金で御希望通りな五册の雜誌が自由に讀める

川崎巡回文庫

電六三〇番

（申込次第規則書進呈）

上田病院

平町南町　電話一二九番

店主が店員を連れて行かれる

正シイ食堂
正シイ喫茶
正シイ酒場

平・田町　レストラン　サロン　電三五二番

藤沼醫院

平町・紺屋町　電話五〇七番

年末年始の……御贈答に

鰹節

志賀盛榮商

平四丁目（電二一三）

耳鼻咽喉科專門

大和田醫院

平町南町一六（電話一七〇番）

井坂醫院

平町田町　電話五五九番

耳鼻咽喉科專門

平田町（電話六九一番）

病室完備　自炊便有

山内醫院

醫學士山内亨吉

お惣菜用　さつま揚　吉原揚

平町一丁目

冬藤商店

電話一四一番

かまぼこ　お揚げ　造製

鈴木辰三郎氏 立候補決定

昨日の豫選會

愈々近く選擧戰展開

石城政友部會にては昨廿七日午後三時よりマルトモホールに於て幹部會を開き候補者豫選の協議を遂げたが最高幹部一任説と投票説との二説に分れた處へ星一氏が單身出馬を聲明、議論沸騰した結果縣支部より列席した物江黨務委員長の提案説明に依る『鈴木辰三郎、古川傳一兩氏中から適任者一名の公認を黨本部に申請するの件』は贊成少く否決され結局投票説が多數を以つて成立、佐々木龍若、島田兼吉兩氏を投票立會人として投票を行つた結果、多數を以つて候補者を鈴木辰三郎氏と決定散會した右に依つて第三區は政友鈴木辰三郎、松本孫右衛門兩氏、民政比佐昌平、氏家清兩氏の出馬が確定する事となり選擧戰の火蓋が切られる

清書を神前に『選擧肅正强調』

平町各小學校の催

平町各小學校は第二次選擧肅正の爲兒童より作品を募集することゝなつたが書方の題材は左の如く決定した尙圖畫書方作品は各家庭の神棚に掲げしめ綴方は各學年毎にプリントして各家庭に配布し優秀作品を『平の教育』紙上に掲載すると

(尋一)　ヨイ人ヲエラブ　(尋二)　正しいせんきよ
(尋三)　清き一票　(尋四)　一票報國　(尋五)　よき選擧、よき日本　(尋六)　一票清く國榮ゆ　(高一)　赤心一票奉公の秋　(高二)　清い一票明るい日本

石城販利總會

けふマルトモに

【既報】石城販賣利用組合は今廿八日午前十時からマルトモホールに於いて總會を開いたが議案左の如くである

一、借入最高限度金額決定の件
一、預入先銀行決定の件
一、積立金を事業資金融通の件
一、搾油工場敷地借入並地上權設定承認の件

小名海産商新役員決定

小名濱海産物商組合は二十七日定時總會を開き左の如く役員を改選終つて錦盛館で懇親會を催した

組合長小野豊次　副組合長圓由之助　馬上喜一
會計金成利惣太　立花新次郎

東北各線吹雪で 常磐線經由

降らぬ雪に惱む

平驛員は大童べ

平驛を上下する常磐線旅客列車は東北北陸各線の吹雪を避けて迂回する旅客で客室何づれも超滿員急行寢臺に至つては二三日前から仙臺、上野兩驛に申込まないと席に有り付けない滿員であるまた貨車も一日二二十輛は常磐線を經由するので驛員は降らぬ雪に惱まされて居る

平町農業關係 十年度統計

年末現在調査

平町農業關係の年末現在で纏められた各種統計は左の如きものである

□耕地面積は一、四九一段で内田九八九段、畑五〇二段尙潰廢された宅地並に工場及建物敷地は畑五段、道路軌道、河川水路敷地は田四段、畑二五段計三四段であるがその他增減は實測の結果田四段反減畑三〇反の減である

□耕作地は一毛作田地八〇六段、二毛作以上田地麥一二二段、綠地六一段計一八三段、總計九八九段である、又自作反別は田二九七段、畑二一七段計五一四段、小作段別は田六九二段、畑二八五段計九七七段

□園藝農産物は日本梨三五〇本、生柿三〇〇本で梨の收獲高は一六八〇貫三六九圓、單價二二錢、柿は一六五〇貫、三三〇圓、單價二〇錢

□堆肥及厩肥見積産額は四六五〇〇貫、價格は四一八圓

滿洲國から

平町へ寶の入船

郷土出身者が送る

日滿小爲替增加す

平郵便局の爲替係に最近目立つて增加して來たものに日滿小爲替があるこれは平町附近から滿洲國へ就職して居る者が遙々母國の吾が家へ送金するアチラの金で昨年十一月には十三口で三百四十二圓餘、十二月には十四口で三百十二圓餘、本月は既に八口で二百五十圓と毎月增加の傾向にあつて日滿第一戰に働く郷土出身者の涙ぐましい奮鬪を物語つて居る

寒稽古納會 紅白試合

平第一校の盛況

平第一小學校は今廿八日午前十時より同校講堂で寒稽古納會の紅白試合を擧行篠山校長の開辭により參加の少年劍士五年以上約五百名必勝の意氣燃えて龍虎相搏つ壯烈な戰の火蓋を切り引廻した紅白の幔幕の中に尙武の大繪卷を繰りひろげた

平町人事

□出生

△研町十一　那德樂氏二男忠さん
△八幡小路七九　大平藤友氏三女紀子さん
△白銀町一四　當時内郷村大字宮字蛭子六七　和田二郎氏三女從子さん

□婚姻

△胡摩澤一二五　渡邊勝盛氏(三一)大沼郡本郷町字本郷上三〇九七　山田マサヲさん(二七)

□死亡

△鎌田町二七　中村バッさん(七九)

平職業紹介所報告

□人を求める方

△精米店員　廿才迄　月給五圓
△洗染見習　十八才迄　給料小遣仕着
△表具見習　廿才迄　年給四、五十圓
△小店員　廿才迄　月給五圓
△配達　十七才迄　月給四圓
△飲食店雜役　廿才迄　月給五圓
△女工　廿才迄　月給七圓
△粕〆人夫　卅才迄　月給十圓
△漁業雜役　廿五才迄　月給十圓
△トラック運轉手　卅才迄　月給四十圓　外住宅給
△女中　四十才迄　月給五圓

□職を求める方

△女中　卅才迄　月給五圓
△人絹女工　廿五才　産婆學校卒
△人絹職工　卅才　高卒
△上工夫　廿四才　高卒
△土工夫　卅一才　尋卒
△漁業雜役　五四才　尋卒
△集金員　四十六才　高卒

諸橋外科醫院
(電話四六四)
平新川町二七
内科　外科　藏内
病科　花柳科　皮膚科
レントゲン科
醫學博士　諸橋鐵彌
醫學士　奥義弘

福島縣平町二丁目
藥品百貨　西村屋藥舗
藥劑師　鈴木堅助
電話三番
振替(東京六〇二九九)(仙臺一〇二〇一)

戀はすまじ

北支那の魔窟に すゝり泣く闇の女

船長の假面に騙れ 連れた江名の酌婦

平署に最近立て續けに二、三本南滿州大連水上警察署より誘拐犯人照會の電報が舞ひ込んでゐる――右は一週間程前大連埠頭に於て擧動不審で同水上警察署に逮捕された山口縣下關生れダルマ船々頭當時住所不定濱口虎濟（四〇）を取調べの結果左の如き婦女誘拐賣却の國際的犯罪が暴露した爲である

濱口は舊臘十四日夜達摩船で小名濱町に廻航した際江名町大字永崎飲食店いさみ尾こと河野義雄方に登樓甘言を以つて同家酌婦北白河郡岩本村大字山上農初治二女藥谷ハル（二五）を誘拐姦を晦まし捜査中のものであつた

尙この國際的誘拐魔につれ出されたハル子は有名な萬里の長城の最尖端を爲す北支那の山海關二番街の魔窩長野トク方に前借六百圓で賣却されて居ること判明大連水上署に抱主の河野義雄が引取りに出發した

危ない老人

疾る氣車を止める

憤慨した湯本驛長告訴

湯本町大字湯本字寶海居住井澤齊治（七二）假名は去る廿一日午後一時半頃同所地内進行中の下り列車の前方線路を通行して同列車を緊急停車させたゝめ湯本驛長から告發された

一日市が最高

平驛の舊正月客

平驛の乘降客から見た舊正月中の人出は大体昨年と變りない殊に舊二日市當日は物凄い粉雪に阻まれながらも乘者二千八百四十六名、降者二千六百八十二名と本年最高の乘降があり其の後も一日千二三百名を平均して居るので驛では旅客收入の增加で有訃に入つて居る

平驛前……宵のボヤ

驚いた野次馬

昨廿七日午後七時半平驛前昭和タクシー野崎喜八郎方から發火約五分で鎭火した原因は同タクシー部運轉手小橋某（二五）がガソリンで部分品掃除中側らのストーブから手に引火驚いて手をふり廻したゝめガソリン罐に燃え移り大事にならんとしたもの損害は約百圓の見込

舊正月も終り 鮪舟待機

小名濱、江名漁港の漁夫連は舊正月酒の醉も一段落を告げたので早くも鮪漁の出港準備を初め船体の修理漁具、食糧等の積込みで多忙を極めて居るが卅日頃までには一齊に伊豆沖五六百浬の漁場に向ふ筈である

昨年中平町 種痘成績

平町昨年中定期種痘成績は第一期第二期を通じて公種

踏み倒し常習 酌婦逮捕

惡運つきた卅女

小名濱町某飲食店抱酌婦岩瀨郡長沼町大字上江花字屋敷四八トメ三女遠藤ミサオ（二八）は昨年四月中逃走行方を晦ましその後耶麻郡猪苗代町某料理店に住み込み之また逃走同樣手段で前借約五百を踏み倒し手配中であつたが廿六日午前八時頃郡山市境福一料理店常磐屋方佐久間チル方に潛伏中を逮捕された

平局暖房裝置 工事進捗

三月半に完成

【既報】舊臘中より工費一萬五千圓で着手した平郵便局の暖房裝置は先づ第一期工事の高さ八寸尺、コンクリート大煙突が九分通り完成目下一萬二千五百圓で局内隅なく引廻すスチーム鐵管を敷設中であるが三月中旬頃迄に機關室を据えて完成する豫定である

小川橋改築

小川村

地内小川橋改築工事の入札は過般平土木監督所で行はれ平町堀江工業會社に一〇五五五圓で落札、近く着工大体八月廿日頃までに竣工の豫定である

因に同橋は鐵筋コンクリートでモダン橋の出現を見る譯である

平商生の商業論文 一般に公表

平商業學校が過般夏休宿題として同校上級生より募集した鄕土商業論文は纖細な研究と伸張力ある内容により單に宿題として葬るのは遺憾であるとの意見もあるので學校では同校商友會とも協議の上近く優秀作品十數点を印刷製本の上一般商業界に發表することゝなつた

明日のラヂオ

仙台放送局　廿九日

天氣豫報　今晩は晴明日も同樣

今晩の部

▼後六、〇〇 子供の時間「物の始り家」佐藤功一
▼後六、二五 青年の時間「德器を成就しと宣給へる聖訓について」葛西千秋
▼後七、三〇 講演「英國皇帝の崩御を悼み奉る」松平恒雄
▼後七、四〇 講演「上海事變の回顧と上海の現情」荒木貞亮
▼後八、〇〇 軍歌と吹奏樂 海軍軍樂隊
▼後八、二五 ラヂオスケッチ 上海異聞 丸山章治郎 地梧朗
▼後八、五〇 聲色劇 劇仕立聲似顏畫 安宅の珍關の場 柳亭長樂他
▼後九、一〇 連續ラヂオ小說「雪之丞變化」守田勘彌
▼九、二〇 時報 ユユース 氣象通報 番組豫告

明日の部

▼前七、〇一 英語講座 四百瀨市
▼前七、二〇 朝の修養 近思錄三文學博士 高瀨武次郎
▼前九、〇〇 家庭メモ
▼九、〇〇 料理献立 一、豚肉茹饅頭 二、忍び鳥 中村康子
▼前一〇、三〇 婦人講座「手紙の書き方」（五）弔慰 文本枝增一
▼後〇、五 モダン小唄
▼後二、〇〇 婦人講座「新時代の日本婦人」シーデークリーテ
▼後二、四〇 小學生高二の時間 地理「昔の文化地帶と今の大文化地帶」廣瀨淨慧
▼後三、一〇 教師の時間「幼稚園保育の實際」及川ふみ
▼後六、〇〇 子供の時間 傳說物語「蟹滿寺緣起」淺野信二郎
▼後七、三〇 講演「日本人の食餌の缺陷に就て」醫學博士 島薗順次郎
▼後八、〇〇 ラヂオドラマ 阿古耶の松劇團
▼後八、二五 管絃樂合唱 附日比谷公會堂より中繼 武藏野音樂學校生徒新交響樂團
▼後八、四〇 連續ラヂオ小說「雪之丞變化」四、守田勘彌
▼後九、〇〇 琵琶元冠 濱田晃養

看護婦急派 求めに應じます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七

安齊外科醫院
平町・田町
電話四七五番

外科 專門
X光線科
上田外科病院
平町 南町
電話一二九番

瓦解の角力

（菊上映上演開始）

悟道軒圓玉（作）
丸尾至陽（畫）

三三　俺は隱密方

お花は三島三郎を向島秋葉神社のかたはら、松平新十郎といふ旗本の妾宅におくり、こゝに居る新十郎の妾おたきといふものに事情を打ち明けて三郎をこゝに潜伏させ夜明けを待つて濱町河岸のすまいにもどると女中のおかねも居らず、また家財も取り散らしてありことにヒューズケンからゆづられた金もない、おかねは正直者とて主人の金を盗んで逃げるやうなものではない、賊が忍び込んで金を取る時におかねが聲を立てたために川へ投げ込まれたものであらうかと、こんなことを思つてゐたそれにしても何となく氣がかりですとその日の暮方

○『御免蒙る、お花どのお在でござるか』

と案内を乞ふものがある、どなたでございますと出て來て見ると、土間に立つてゐるは大小を腰にした三十四五の侍、お花はその人をぢつと見て

花『お前さんは兄さんだね』といつたが、何んで定次郎が來たかと不思議に思つた。

定『贅澤な家に住んでゐるな、前に川を見て夏は暑さ知らず、宜い住ひだな、まア御免を蒙ります』

刀を右の手にさげて中洲を一と目見た八疊の座敷に通つた。おはなはお茶をすゝめ行燈に灯を入れて

花『兄さん、何んでこゝへ來たの、お前さんとは兄妹の縁は切れてゐるよ』

定『それなればこそお花さんはお在でございますかと言葉も叮嚀にしたのよ、今日俺が來たもお前に頼むことがあるんだ』

花『おやさう、お金の無心かへ一兩や二兩ならば小遣ひにあげませう』

定『馬鹿なことをいふな、俺の服裝を見て物をいへ、紋付の帷子を着て袴をはき大小をさしてゐる今では立派な見分だ、緣の切れた妹のところへ金の無心には來ねえよ』といつたが、お花はにつこり笑ひ

花『それは飛んだことを申しました、定めしお氣にさはつたでございませうか勘辨して下さい』

定『イヤ俺の身狀がよくなかつたから又しても金の無心に來たかと思はれても怒るところはねえ、實は頼みがあつて來たのよ』

花『そのお頼みとはどんなこと』

定『こゝに置いた客人のことで出て來たがその客人の忍んでゐるところを話してくれ』

これを聞いたお花はぎよつとした、定次郎は袂をさぐつてお納戸羅紗の煙草入を取り出し、銀の石州張の煙管で煙をふきながらおはなをヂロ〳〵見てゐたが

定『むづかしいことはねえ又考へる程の大事でもなからう、長六といふ船頭を頼んでお前が送つて行つたその客人の居るところをいへば宜いんだ』

花『おやまア、お前さん長六からその事を聞いたの』

定『さうよ、長六が何も彼も吐いてゐるんだ、かくすとお前の爲によくなからう』

花『兄さん』

定『おい待つてくれ、俺はお前の兄貴ぢやアなからうお前の方で緣を切つてくれといふからそこで百五十兩で義絶した、して見れば赤の他人だ、これからは土井の旦那と呼んでくんな』

花『なんだねえそんなことをいつて、お前さんは今何をしてゐるの、こんなことを調べる役を有つてゐるのかえ、公儀のお役人でなければこんなことを聞くことは出來なからう』

定『いや、その仰せは御尤も至極俺は今公儀の隱密方で、浪人のことについて御老中から頼まれて、その取締をしてゐるのよ、して見れば客人のことを聞けばといらざることに口を出すとは言へなからも、どうだ客人のゐるところは言へねえか——』

一齒科一般
工科　齒列矯正科
一口腔外科
保存科補綴科　繼續架
小兒齒科　齒槽膿漏科
一レントゲン科
中野齒科醫院
平町出町（松月堂向ヒ）
電話五〇九番
院長
日本齒科醫學士　中野惠次
日本齒科醫學士　西川誠

内科
外科一般
金成醫院
金成忠義
平鎌田町（電三五八）

外科
花柳病科
専門
木村外科醫院
自炊入院の便あり
電話三〇九番
平町六丁目橋際

吸入用酸素
純度99%
度量衡
モノサシ
マス
ハカリ
計量器
體温計
寒暖計
秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス
岡内商店
電話四〇番
◇寫眞材料一式販賣致シマス

喜多流謠曲と仕舞の
お稽古をお奬め致します
平町田町六九
喜多流謠曲仕舞　白土會
電話一二七番

石炭
コークス
豆炭
平驛前
阿部石炭店
電話三十七番